

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
城南中学校生徒としての誇りをもち、たくましく生きる生徒の育成 ～「城南魂をもち、主体的に学ぶ人」を目指して～	①学習指導方法全般の改善 ②コミュニティスクールの活性化 ③教職員の資質・能力の向上(教育は人なり)

達成度 A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①学習指導方法全般の改善

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・生徒の基礎学力定着	・12月の県学習状況調査において、正答率50%以上、無回答ゼロの生徒を80%以上とする。 ・「学び合い」の考え方をもち、主体的に学ぶ学習集団の育成に向けた指導方法の工夫・改善を行う。	・生徒の実態分析をもとに校内研修会や教科部会を実施し、達成に向けて教職員の意識の共有化と実践を図る。 ・授業課題と授業終了の評価を連動させ、次期学習指導要領実践研究につなげる。	B	・12月の県学習状況調査の平均正答率は、2年生社・数・理以外で50%以上を達成した。 ・全教科の無回答率は2年生が10.6で県平均を下回り、1年生が3.3で県平均を上回った。	・12月調査の結果を全職員で共通理解し、教科部会において各教科ごとに結果分析・対策の検討を行った。どの教科も記述式問題に課題が見られるので、授業の中で根拠を明確にして自分の考えをまとめたり書いたりする活動を多く取り入れる。
	○生徒指導の充実	・城南魂を身に付けた生徒の育成	・学校評価アンケートにおいて、「相手や場に応じた行動ができています」と回答する生徒の割合を85%以上とする。	・城南魂とは何かについて生徒・教職員に共通理解を図り、全教育活動を通して時宜を得た適切な全体指導や個別指導を行う。 ・問題対応だけでなく、開発的生徒指導の観点に立った指導を行う。	A	・1年生94%、2年生87%、3年生98%で平均が94%であった。昨年度と比較し、7%増加した。	・今後も全職員で適切な全体指導や個別指導を継続する。また、集会の場などを利用して「相手や場に応じた行動ができています」と評価する。
	◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・生徒の学習意欲向上、理解の深まりにつながるICT活用	・電子黒板を効果的に活用した授業ができる教職員の割合を100%とする。 ・校内研修等において、ICT機器を活用した授業実践に関する研修を行う。	・全教科・全領域で電子黒板を活用した授業実践を行い、生徒の主体的な学びにつなげる。 ・1人1公開の授業において、ICT機器の効果的な活用を推進する。	B	・11月の公開授業に向けて、ICT機器を活用して授業理解を深めようとしている姿が多くの授業で見られた。ただ、より効果的な活用について議論する機会があまりもなかった。	・ICTの活用について、ミニ研修会やプリントによる宣伝など、もったいない行っていない必要がある。また、ICT支援員と連携してデジタル教科書や各種資料の提示など教職員のニーズに応えていく。

②コミュニティスクールの活性化

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・自己肯定感を高め、自他を尊重できる生徒の育成	・道徳教育推進教師を中心とした道徳の授業の活性化を図る。 ・JRC活動やボランティア活動の活性化を図り、活動への参加生徒を増やす。 ・人権・同和教育を推進する。	・各学級の道徳の授業を保護者や地域に公開するとともに、道徳の時間以外の活動でも生徒の心を育てる支援を行う。 ・募金活動やベトナムキャンプ収集などJRC活動を活性化し、ボランティア意識の高揚を図る。	B	・人権週間では、生徒会による問題提起や劇をもとに話し合いや感想書きを行い、自他共に大切にしていこうとする態度を培った。 ・JRC活動は学級を単位として活発に活動し、地区ボランティア活動にも積極的な参加が見られた。	・自分を見つめ他を思いやり感性豊かな心を育てること、規範意識の醸成、いじめや暴力の根絶に向けて、あらゆる教育活動において取組を充実させる。 ・地域との連携を深め、生徒が参加しやすいボランティア活動の場を準備する。
学校運営	○情報発信	・HPの更新など広報の充実	・学校行事や生徒の活動の様子、地域との連携の状況を積極的に情報発信し、学校に対する関心を高める。	・HPや学校・学年たよりで積極的に情報発信する。 ・公民館の自治会ボックスを活用してもらい、校区全体に知らせる。 ・地域ボランティアに参加させ、生徒の活動の様子を見てもらう。	B	・毎月発行の学校・学年たより、定期的なHP更新、メール配信等により活動の様子や様々な情報を周知できた。 ・学校からの配布物を保護者に渡さない生徒がいたことが残念である。	・配布物を保護者に渡すことや重要な文書をHPに公開することを徹底する。 ・学校たよりを公民館など公の施設に届け続けることと、城南中掲示板(仮称)を設置して地域への情報発信を図る。
	○開かれた学校づくり	・家庭や地域との連携、小中連携の取組の深まり	・学校に期待されている面をしっかりと踏まえ、地域に誇れる特色ある活動を展開する。 ・フリースクールやPTA総会、その他学校行事への保護者の参加率を60%以上に上げる。	・CS協議内容を十分に踏まえるとともに、小学校と学習・生活面の連携充実を図る。 ・学校行事の日程や内容を不断に見直し、保護者の「見てみたい」「参加したい」という意識の高揚につなげる。 ・地域の方と生徒がふれあう場の設定を工夫し、地域の声を生徒に聞かせる。	B	・小中連携を活かした「ドリームスクール」「出前あいさつ」「出前授業」等により魅力をアピールし、入学希望者数割合が増加に転じた。 ・学校行事はすべて案内をしたが、小学校行事と重なることもあり、保護者の参加が少ない行事もあった。	・学校行事は、保護者が参加しやすい日程、参加しなくなる内容を検討する。 ・小中連携会議の場で、互いの行事日程の確認を徹底する。 ・校区の中学校として小学校保護者にも行事の案内をして、中学校の魅力アピールする。

③教職員の資質・能力の向上(教育は人なり)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○チーム学校としての機能	・学校組織として向かうベクトルの意識	・学校教育目標達成に向けて、教職員が一枚岩になる。 ・信用失墜行為をゼロを目指す。	・学校課題を共通理解し、解決に向けて共通実践するとともに、専門性をもつ外部人材を有効活用する。 ・服務規律の保持について、具体例を提示して意識高揚を図る。	A	・学校経営方針、教育目標、目指す学校像などの内容や趣旨を全職員が理解し、外部人材を含めて一丸となって達成に向けた取組ができた。 ・各自が意識して信用失墜行為をゼロを達成した。	・多様化・複雑化する課題の解決に向けて、組織として教育活動に取り組む体制を確立する。 ・心理や福祉等の専門スタッフとの役割分担を明確にし、連携を深める。
教育活動	●いじめ問題への対応	・未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織対応	・未然防止のための居場所づくり、絆づくりを行い、いじめゼロを目指す。 ・いじめを見逃さない体制づくりを行い、組織的な対応をする。 ・保護者や関係機関との連携を密にする。	・情報をいち早くキャッチするために定期的な生活アンケートを実施する。 ・生徒指導体制を強化し、情報交換を定期的(週1)に行う。 ・SC等、専門性をもつ外部人材と連携を図り、早期対応に努める。	B	・いじめが発生し、いじめにつながるような行為も散見されたが、「いじめや差別をなくすようにしている」と回答した生徒が89%いた。学年が上がるにつれ、意識も高く、トラブルも少ない。	・毎月1日の「いじめ・命を考える日」の取組の充実を図り、未然防止に尽力する。 ・定期的なアンケートの実施や日常観察によって早期発見に努めるとともに、必ず迅速な対応をする。
	○不登校生徒への対応	・未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織対応	・教育相談担当を中心とした組織的な教育相談体制を確立する。 ・不登校生徒の早期発見・早期対応に努め、学級復帰を目指す。 ・保護者と連絡を密にし、信頼関係を深める。	・情報交換を密に行い、組織的な支援を行う。 ・定期的な教育相談アンケートを活用するとともに、ケース会議を実施して個別に支援を行う。 ・SC等、専門性をもつ外部人材を活用した職員研修を実施する。	B	・定期的教育相談、アンケートを実施して、不登校の未然防止に努めた。また、毎週教育相談部会を開催して個別の状況を確認し、情報共有と手立てについて協議した。 ・専門スタッフの支援を受けながら対応を行ったが、2年生の不登校者数が増加した。	・良好な友人関係の構築と魅力ある学校づくりをさらに進め、新たな不登校の未然防止に努める。 ・校内教育相談体制をさらに整備するとともに、別室登校生徒の教室復帰を目指した取組の充実を図る。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●健康・体づくり	・部活動の奨励と推進 ・基本的な生活・食習慣の定着 ・学習・睡眠時間の適正化	・積極的に部活動に参加し、心身の健全な発達を目指す。 ・生徒一人一人が体調の自己管理ができる。 ・朝食欠食ゼロを目指す。	・部活動と学習の関連、体調管理について実態に応じた指導を行う。 ・生活アンケートの中で学習や生活等の調査を行い、実態に応じた指導を行う。 ・保健だよりなどで健康管理面の啓発を行う。	A	・保健指導を通して健康の大切さの啓発と意識の向上を図ることができた。 ・関係機関と連携して講演を行い、性教育や防煙教育、薬物の害などについて理解を深めることができた。 ・保健だよりを通して食事や睡眠の大切さを伝えた。	・関係機関と連携した指導を継続し、健康や体づくりの大切さについて理解を深める。 ・保健指導や保健だより、生徒会活動などを通じて健康管理面の啓発を徹底する。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

本年度は、すべての項目が「ほぼ達成できた」、または「概ね達成できた」と評価でき、全体として両項な教育活動が展開できたと考えられる。学習面・生活面においても、特に3年生の伸びが著しく、他学年に良い影響を及ぼした。職員一丸となつた取組に加え、コミュニティスクールとして小中連携や地域連携に努め、多くの人が関わりをもち、見守ってきたことが功を奏していると思われる。次年度に向けて、学力向上では引き続き「学び合い」の考え方を取り入れた授業に全教科で取り組み、授業改善を推進する。「学び合い」の考え方で生徒のコミュニケーション能力の育成を図り、良好な友人関係を構築させることで、本校の大きな課題である不登校の減少につなげたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目